

生物資源分野

研究領域

「生物資源の持続可能な生産と利用に資する研究」

採択年度	2016年	研究期間	5年間
研究課題名	肥沃度センシング技術と養分欠乏耐性系統の開発を結合したアフリカ稲作における養分利用効率の飛躍的向上		
研究代表機関	国際農林水産業研究センター 生産環境・畜産領域		
相手国	マダガスカル共和国	主要相手国 研究機関	マダガスカル農業省
研究課題の概要			
<p>本研究は、アフリカの風化土壌にみられるさまざまな養分欠乏に応じた施肥技術と養分利用に優れた革新的なイネの品種開発を統合することで、肥料投入が限られた地域のイネの生産性を大幅に改善することを目的とする。具体的には、アフリカ第2のコメ生産国であるマダガスカルを対象に、コメ生産を阻害する欠乏養分の評価法、リン欠乏耐性遺伝子PSTOL1など新規遺伝子の導入系統、圃場養分特性に応じた局所管理技術を開発する。さらに、開発技術の普及に必要な条件と農家所得・栄養改善への影響を明らかにし、技術マニュアルと普及への提言をまとめることで、マダガスカル農業省主導の普及活動に貢献することを目指す。また、参加型試験を軸に、技術に対する農家の主体性を醸成し、開発技術の定着と農家間の技術伝達を図る。一連の活動を通じた人材育成と現地分析拠点の確立により、低投入低肥沃度環境のみならず、枯渇する肥料資源にも対応できる、養分利用に優れた作物生産技術の開発をリードする共同研究体制を構築する。</p>			